

今年はこちら関東地方でも台風の被害が多い年です。9月21日に再接近した台風15号は、いつになく強い風や雨にさらされ、街でもたくさんの木が倒れたり、大きな枝が折れたりしました。博物館のまわりではどんな影響があったのか、見てみましょう。

◆博物館西側樹林地のようす

博物館西側の樹林地帯は、国有地です。昨年からは内部に遊歩道がつくられて、市民の憩いの場となっています。しかし台風15号によって、たくさんの木が倒れてしまいました。大きな枝が折れて、空中にひっかかったままのものもあつたり、高さ15mを超えるような木が倒れたままになっているため、現在、立ち入り禁止になっています。



一番背の高かったヤマザクラ

◆どんな木が倒れたの？

今回倒れた木は、どんな木なのでしょう。目立つのは、ヤマザクラです。この木は街路などに植えられているソメイヨシノと違って、樹林の中で高くまっすぐ上に伸びる性質があります。今回、博物館西側の一角だけでも、最も背の高かったヤマザクラ2本が倒れました。それに巻き込まれて、コナラが3本倒れています。また、ハリエンジュも2本倒れています。この木は高さもありますが、もともと根が浅いことでも知られていて、倒れやすい木だったと言えます。ちなみに、博物館の駐車場にあつたハリエンジュが、じつに5本倒れました。成長が早いため、砂防工事の



サワラ

土留めの目的で一時期盛んに植えられた外来種ですが、台風被害を考えると、大きく育ててはいけない木なのかもしれません。また、樹林地内ではほかに、あまり大きな木ではありませんでしたが、トウカエデとサワラが1本ずつ倒れていました。大きな枝が折れた木で目立ったのは、ミズキでした。

◆地面の中は平穏？

倒木ばかり見ているとなんだか気が滅入ってくるので、ちょっと地面を見てみましょう。落ち葉の中に、何やら土が新しく盛られています。これは、地面の中にトンネルを掘って生活するアズマモグラのしわざです。新しいトンネルを掘り進めるには、当然、土を外へかき出さなくてはなりません。このような盛り土状になったものを、モグラ塚と言います。このモグラ塚は、まだ土が湿って新しいので昨夜できたものだとわかります。地中生活のため、姿をめつたにみられないモグラも、こうして確かにこの場所に生息していることがわかります。これを、野生動物のフィールドサインといいます。



アズマモグラのモグラ塚

次回のお知らせ

ミニ観察会：11月5日（土）11時から 新聞 No. 7 も観察会にあわせて発行します。